

経営比較分析表（令和5年度決算）

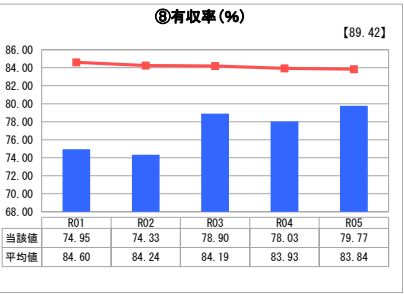
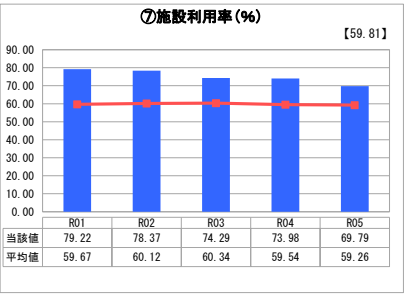
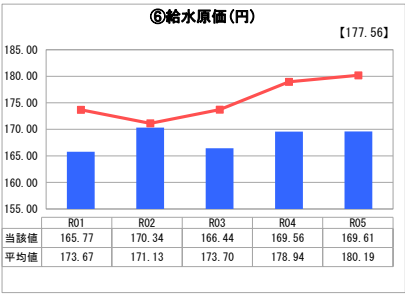
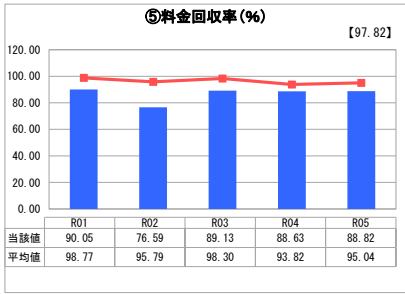
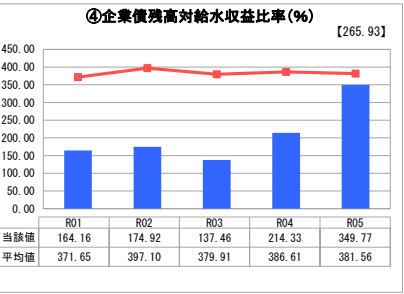
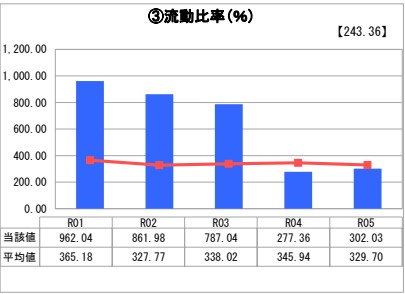
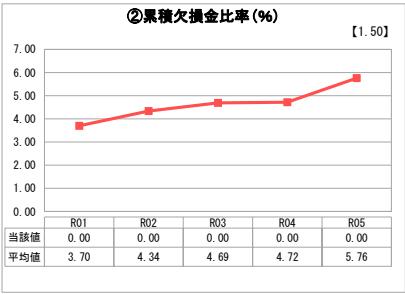
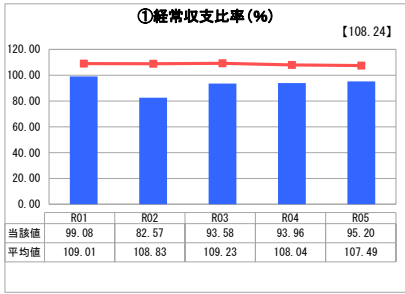
岡山県 備前市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	73.60	98.90	2,772	

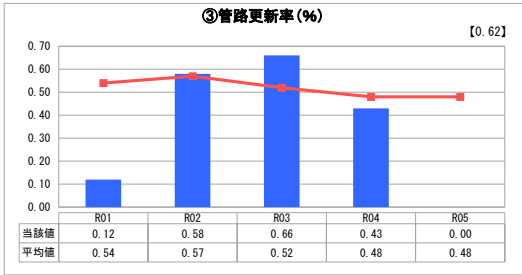
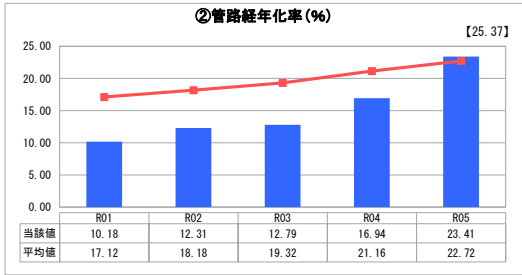
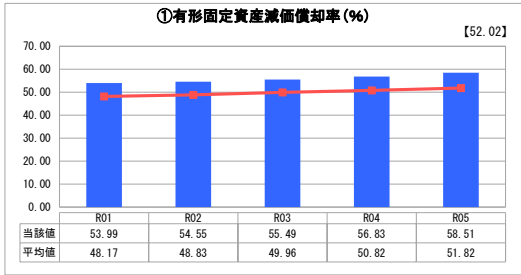
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,411	258.14	121.68
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
30,863	53.90	572.60

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

人件費の削減等により前年度に比べ支出を抑制したが、給水収益減少の影響が大きく6年連続の赤字決算となった。①経常収支比率や⑤料金回収率は若干改善したものの、依然として類似団体平均値を下回っている。

⑧有収率は、漏水調査の成果により1.7ポイント向上した。引き続き漏水調査や管路調査を実施し改善に努めている。

③流動比率の減少については、決算時における建設改良事業費用の未払金が一時的に増加したものであり問題ない。②④⑥⑦の指標についても、水準以上を保っている。赤字決算となったが、欠損金はなく、十分耐え得るだけの現金等もあるため、経営についても問題なく行える。

しかし、②累積欠損金比率については、今年度は0%であるが、今後も人口減や節水型機器の普及により給水収益が減少する一方、管路や施設の老朽化による修繕費の増加や、施設更新による減価償却費の増加等により厳しい経営となると見込まれる。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率②管路経年化率ともに年々増加しており、類似団体に比べ管路や施設の経年化が進んでいるため更新を計画的に実施していく必要がある。

③管路更新率について、当年度は浄水場の耐震化工事を最優先に取り組む課題としていたため管路更新を行わなかった。主に高度経済成長期頃に敷設した管路が老朽化していることから、管路の耐震、更新に当たっては、長期的なビジョンを持って計画的に実施していく必要がある。

全体総括

水道事業の経営は、給水収益の減少、修繕費の増加等により、6年連続の赤字決算となり厳しい状況が続いている。主たる財源である給水収益の減少が今後も避けられない中で、より一層の経費節減を進める必要がある。

施設の老朽化も著しく、今後の更新には多額の費用を要するため、収支のバランスと効率性の観点から施設の統合や規模の見直しを行うなど、健全で効率的な経営に努める。